

私立大学情報教育協会 政治学・国際関係学グループ  
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会

## ファシリテーターを制度化し活用する取り組み (初年次教育をファシリテートする効果と課題)

2016年3月5日(土)  
明星大学明星教育センター事務室 御厨まり子

### 本日のテーマ

#### 1. 全学初年次教育 「自立と体験1」

- ・設置した経緯
- ・特徴について(概要)
- ・具体的事例について
- ・ファシリテートする効果と課題

## 明星大学の歴史 — 明星学苑 —

大正 12 (1923)年

創設者 児玉九十により、

明星実務学校開校 (東京都府中市)

昭和 2 (1927)年

明星中学校に改組

昭和 23 (1948)年

明星高等学校開校



**学校法人明星学苑は、  
今年で93年目に。**

めいせい  
教育の明星大学 3  
2014年 大学創立50周年

## 明星大学の歴史 — 黎明期 —

昭和 39 (1964)年

明星大学開学 理工学部開設

昭和 40 (1965)年

人文学部開設

昭和 42 (1967)年

通信教育部開設

平成 4 (1992)年

情報学部 日本文化学部開設

平成 13 (2001)年

人文学部経済学科を経済学部経済学科に改組

平成 17 (2005)年

造形芸術学部を開設

理工学部 人文学部 経済学部 情報学部 日本文化学部を改組



明星大学開学、1964(昭和39)年4月

めいせい  
教育の明星大学 4  
2014年 大学創立50周年

## 明星大学の歴史 — 成長期 —

平成19 (2007) 年 日野キャンパスリニューアル

平成22 (2010) 年 教育学部を開設、  
理工学部 人文学部 日本文化学部  
を改組

平成24 (2012) 年 経営学部を開設、 経済学部を改組

平成26 (2014) 年 デザイン学部開設

## 2014年 大学創立50周年



めいせい  
教育の明星大学 50  
2014年 大学創立50周年

## 2. 明星大学の教育について — 教育目標 —

### 明星大学の教育目標・教育内容と教育方法

#### 教育目標

自己実現を目指し、社会貢献ができる人の育成

#### 教育内容と 教育方法

・現代社会に生きるものとして必要不可欠な

基本的知識と技能の習得

・幅広い教養を身につけた自立する市民の育成

・心と体の健康管理の教育

・高度専門職業人及び幅広い職業人の育成

・体験教育 を通して生涯に亘る学習意欲を獲

得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育

めいせい  
教育の明星大学 6  
2014年 大学創立50周年

## 本日のテーマ ファシリテーターを制度化し活用する取り組み

### 1. 全学初年次教育 「自立と体験1」

#### ・設置した経緯

- ・特徴について(概要)
- ・具体的事例について
- ・ファシリテートする効果と課題

## 「自立と体験」等授業の導入と明星教育センター設置の経緯

2005年以前 学科毎の初年次教育的科目(スタディースキル系)

2005年 「自立と体験」(学部学科科目)

2008年 ・全学共通教育としての初年次教育の検討開始

#### ・「全学初年次教育運営準備委員会」※

教育目標、シラバス、ポートフォリオ、教案などを検討。

検討課程における最大の論点は「学部学科横断クラス」

2009年 ・「明星教育センター(仮称)設置準備委員会」※

運営面をサポートできる部署を設置するために、センター骨子を策定

・大学評議会で「自立と体験1」とともに了承

#### ・「明星教育センター(仮称)開設準備委員会」※

2010年 「自立と体験1」開講、明星教育センター開設

## 「自立と体験」授業の導入

- 2010年
  - ・4/1\_明星教育センター開設(人事異動、新任教員着任)
  - ・4/8\_全学共通科目「自立と体験1」(1年前期)
  - ・学部学科ごとに「自立と体験2」(1年～2年)
- 2012年
  - 「自立と体験3」(2年後期)
  - 「自立と体験4」(3年前期)
- 2014年 「社会的・職業的自立促進科目群検討委員会」※
- 2015年 「キャリアデザイン1」
- 2016年 「キャリアデザイン2」

## 明星大学の特徴的な取り組み

4年	後期	卒業後に向けての準備		キャリアデザイン3	
	前期	キャリアセンターの活用 ・就労プロジェクト ・各種講座 等			
3年	後期	自立と体験4 (自由科目、3年前期) ・キャリアデザイン ・自己理解 ・社会・企業・仕事 ・就業意識 ・自己表現 ・グループディスカッション			キャリアデザイン2
	前期	就職活動の前提となる就職力を身につける			
2年	後期	自立と体験3 (自由科目、2年後期) ・社会人基礎力 ・社会への関心 ・問題解決技法 ・意見を述べる ・議論する ・チームワーク ・キャリアデザイン	キャリアデザイン2 (自由科目、2年3年後期) ・社会で直面する問題のケースワーク・チーム活動 ・現実的態度・勤労観・職業観・主体的学び	キャリアデザイン1	
	前期	自立と体験2 (必修、学科科目、1年後期または2年前期) ・大学での学びの意識と基礎力の育成 ・社会と働くことへの関心 ・将来を見据えてのキャリアデザイン	キャリアデザイン1 (自由科目、1年2年後期) ・キャリアデザインの理論 ・勤労観・職業観 ・社会に出て働くイメージ ・個人・グループワーク		
1年	後期	自立と体験1 (必修、全学共通科目、1年前期) ・自分を理解し目的を見つける・人と関わる力をつける・考える力をつける・学ぶ力をつける			キャリアデザイン理論に基づく自己理解・就業意識
	前期	自立と体験1 (必修、全学共通科目、1年前期) ・自分を理解し目的を見つける・人と関わる力をつける・考える力をつける・学ぶ力をつける			

## 本日のテーマ

### 1. 全学初年次教育 「自立と体験1」

- ・設置した経緯

- ・特徴について(概要)

- ・具体的事例について

- ・ファシリテートする効果と課題

## 「自立と体験1」概要 1年前期必修 全学共通科目

- ① 70弱の学部学科横断型のクラス編成
- ② 各学部の専任教員による授業の実施
- ③ 少人数制(30人)の協同学習、体験学習
- ④ 共通シラバス、共通教案、ポートフォリオによる授業
- ⑤ SA/TAによる担当教員のサポート
- ⑥ 明星教育センターが授業全体の運営を行う



「自立と体験1」概要 1年前期必修 全学共通科目



学長による授業



職員インタビュー



図書館スタッフによる説明

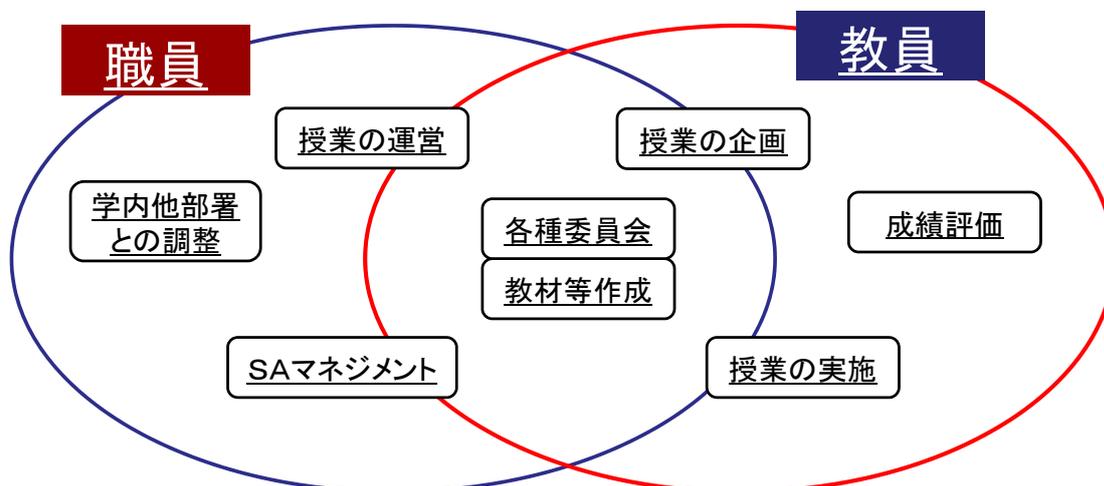


SA(スチューデント・アシスタント)／TA(ティーチング・アシスタント)



明星教育センターでの教職協働

- MEC教職員全体で週1回のミーティング  
情報共有・意見交換
- 担当業務ごとのチームで企画・運営・実施



## 本日のテーマ

### 1. 全学初年次教育 「自立と体験1」

- ・設置した経緯
- ・特徴について(概要)

#### ・具体的事例について

- ・ファシリテートする効果と課題

## 具体的な事例① — 授業運営上の工夫

### ① 担当教員へのサポート

- ・15回の教案、ポートフォリオ
- ・担当教員事前説明会(研修)
- ・グループリーダー制
- ・ニュースレターの毎週配信
- ・学内イントラネット活用
- ・アンケートによる意見聴取
- ・授業資材等準備の一括管理
- ・SA(スチューデント・アシスタント)の導入



## 具体的な事例① ー授業運営上の工夫

### 授業資材等準備の一括管理



### ニュースレター



## 具体的な事例② ーSAの導入

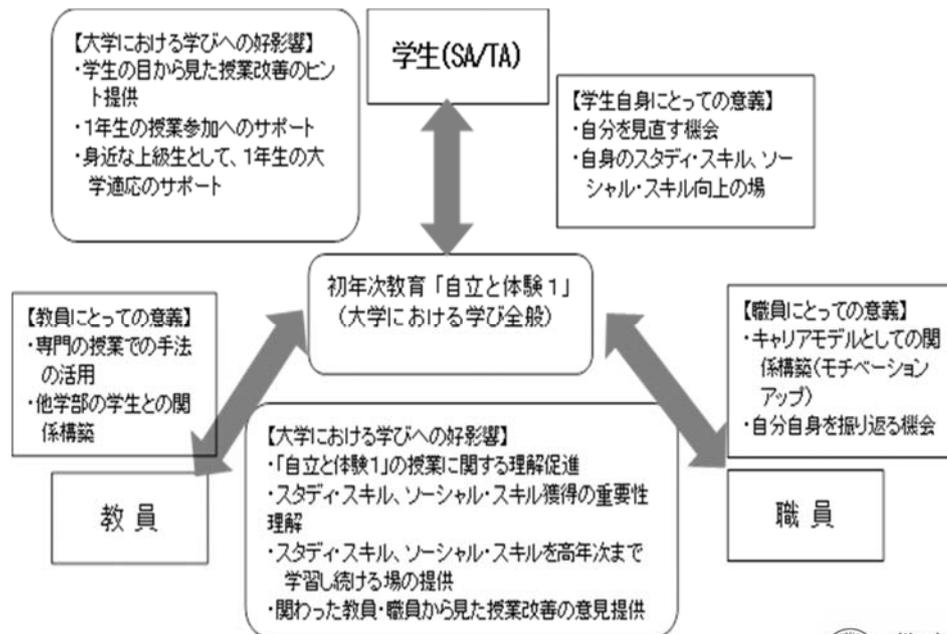
### SAの役割

1年生に近い立場で「自立と体験1」の授業運営をサポートする大切な役割を果たす。

- 1年生に対しては、良い先輩としてグループワークや演習のサポートをしたり、声掛けをする。
- 教員に対しては、教室内の雰囲気づくり、授業資材準備、資料配布、授業運営アシスタントを行う。
- 明星教育センターと担当教員との連絡役。
- 研修を実施し、期待を伝える。
- 多くの2年生が、自ら希望してSAを担当。

## 具体的な事例② –SAの導入

### 「自立と体験1」の授業と教員・職員・学生(SA)相互作用



## 本日のテーマ

### 1. 全学初年次教育 「自立と体験1」

- ・設置した経緯
- ・特徴について(概要)
- ・具体的事例について

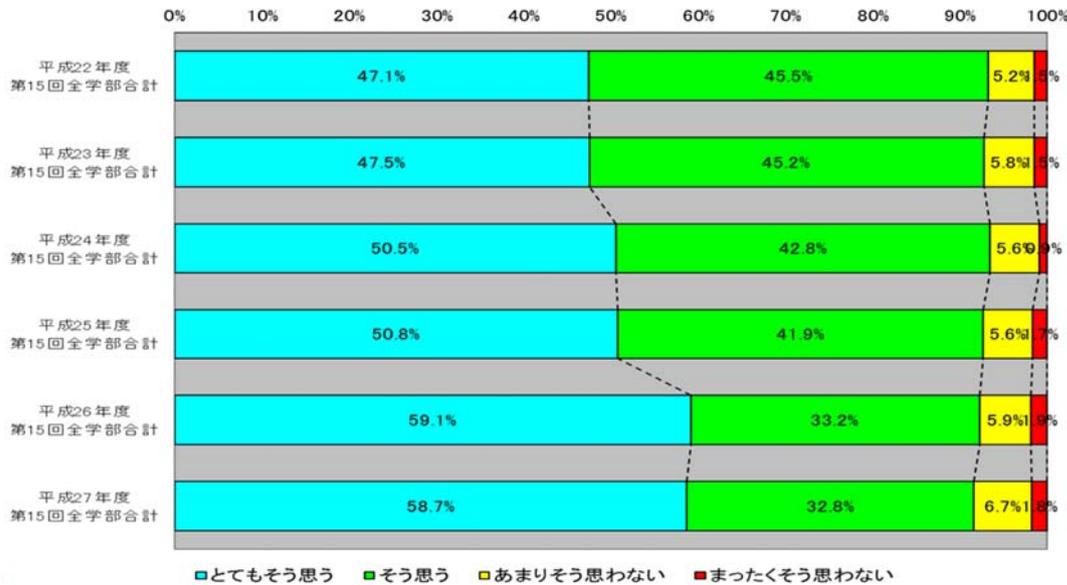
・ファシリテートする効果と課題

# ファシリテートする効果と課題

## 効果①—学生の評価

学部学科横断クラスへの評価

「他学部・他学科の学生との交流」は役にたちましたか？



# ファシリテートする効果と課題

## 効果②—導入後の教員の反応(教員アンケートから抜粋)

この授業で、大学での生活を考える機会が与えられて、大学を卒業するつもりで来ている学生にとっては、いい初年次教育になったと思います。

先生のなかでローテーションになるような仕組みづくりを強化してほしい。●●学部の先生のなかには、7年近く担当している先生もいる。明星大学の教育の特徴のひとつなので、すべての教員が一度は担当し、この授業について知るべきかと思う。

素直に嬉しかったり、ため息をつかされたり、様々なことの連続でした。その都度、教員として、あるいは人として、成長の機会を与えられているのだと感じます。

非常に良い経験をさせていただきました。ランチミーティングに参加できていませんでしたが、毎回のニュースレターを読ませていただき、参考にしました。

導入後、始まる前の抵抗より、肯定的な意見が増える結果となる。

## ファシリテートする効果と課題

### 効果③－SAについて感想(教員アンケートより抜粋)

やはりSAの学生が常時サポートしてくれたことは非常に助かりました。

とても朗らかな学生で、皆のお姉さんのような役回りを果たしていた。

1年生が与えられた課題に取り組む際、さりげなく助言をしていました。グループで話し合いを行っている際、グループごとの進捗や状況をよく把握していたと思います。

授業の前後に、取ってほしい行動や、気を付けてほしいことなどについて話をする中で、自分たちの役割をしっかりと認識して行動してくれました。授業の雰囲気づくり、1年生に対する励まし、動機づけなど、非常に活躍してくれました。

学生が困ったとき、教員が指示するより、先輩の学生がフォローした方がよいことが多かった。

配属のSAは昨年、私の担当のクラスの学生だったので、私の授業の進め方、形態をよくわかっており、先手で段取りができていました。



## ファシリテートする効果と課題

### 効果④－SAの感想(SAアンケートより抜粋)

#### ●SAから見た1年生の様子(SAアンケートより抜粋)

初めは他学部とのグループワークに抵抗を感じてる様子がみえたので、1年生へ積極的に支援して、会話を促すようにしていた。何回も講義を重ねていく間に、1年生同士で積極的に関わることができるようになって嬉しかったです。

一人ひとり、いままで育ってきた環境とは全く違う環境の友達ができ、いい刺激になった授業だったと思う。例えば、いままで女子高で育った子が、グループがみんな男の子になってしまったりとか。それでも毎回彼女らしい明るさで振舞っていて、野球部のような男らしい友達もできたようで、きっとこれからもっと色々な友達ができ明るい学校生活を送れるんだろうなあと思いました。

#### ●SAをやってみての感想(SAアンケートより抜粋)

一番の感想は、私が1年生のときに受けた自立と体験1とは違うということです。やっているワークなどはほとんど変わりありませんが、教員によって指示が多様に異なり、教員次第で受講する学生の意識が変わってくると感じました。

SAを担当して4年目、「自立と体験1」の授業は他学部・他学科と協力して、グループワークを通して今後の自分自身を考えていく授業だと私は思っています。

## ファシリテートする効果と課題

### 今後の課題

- 初年次教育から体系化する仕組みづくりの強化  
(大学全体のリソースや巻き込んだ仕組みづくりへ)
- センター教職員の強みを生かしつつ、役割の明確化し、運営面での更なる効率化(増え続けていく業務の整理と分担)
- IR機能の強化し、客観的データに基づく授業の効果測定
- アクティブ・ラーニング授業における教員サポート体制の見直し
- SAの活用と育成プログラムの強化
- 学内への情報発信の強化
- 初心を忘れない(マンネリ化、この授業を始まった経緯他)



ご清聴ありがとうございました。

